

「農学研究科」設置の経緯と目的 (2024 年 4 月開設 設置構想中)

温暖化などの地球規模の環境変動や世界人口の急速な増大は、将来的な世界の食料需給と健康で安全な生活の維持に深刻な課題を投げかけている。日本は食料の多くを輸入しており、我が国の食料の安定供給は、農業と食に関連した世界の問題と密接に関係している。また、ロボット、AI、IoT といった技術革新、TPP11 など経済連携協定の発効に伴うグローバル化の一層の進展、持続可能な開発目標 (SDGs) に対する関心の高まりなど、食農産業を巡る国内外の経済社会状況は新たな時代のステージを迎えている。一方、国内ではかつてない少子高齢化・人口減少の波が押し寄せ、特に農業従事者の減少と高齢化が極めて進み、既に地方の一部では産業や集落の衰退が現実のものとなりつつある。近年では、地方ばかりでなく都市部にもその影響が現れており、地方と都市を有機的につなげた新しい食と農の関係の構築が喫緊の課題となっている。

このような中、持続可能な活力ある地域経済社会を構築するためには、時代の変化を見通し、実態に合わなくなった制度やシステムを大胆に変革し、人材や資金を呼び込み、新技術を社会実装することにより、時代の変化に多彩に対応し、新たな成長へとつなげていくことが必要である。食料・農業・農村分野においては、1999 年制定の「食料・農業・農村基本法」に基づき、2020 年 3 月閣議決定された「第 5 次食料・農業・農村基本計画」では、農業や食品産業の成長産業化を促進する産業政策と多面的機能の維持・発揮を促進する地域政策を車の両輪とする施策が示されている。

摂南大学は今般、農業生産学、応用生物科学、食品栄養学、食農ビジネス学で構成する農学部を基礎として、新たに大学院農学研究科 (博士課程) を設置し、より深い専門性を養うとともに、食と農を巡る多様なステークホルダーと連携・協働できる実践力を持った高度専門職業人や研究者を養成する。今後、社会人の再教育や教育研究を通じた地域貢献及び国際貢献にも積極的に取り組む。

摂南大学農学研究科の概要 (2024 年 4 月開設 設置構想中)

1. 名称、定員等

研究科名	専攻名	課程	入学定員	収容定員	学位
農学研究科	農学専攻	博士前期課程	20 人	40 人	修士 (農学)
		博士後期課程	3 人	9 人	博士 (農学)

2. 修業年限 博士前期課程 2 年、博士後期課程 3 年 **【博士課程の設置】**

3. 設置所在地 枚方キャンパス (大阪府枚方市長尾峠町 45 番 1 号)

4. 開設時期 2024 (令和 6) 年 4 月 1 日 ※修士・博士同時開設

摂南大学農学部の概要

【農学部】

教育研究上の目的	総合科学としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識・技能をもって、「農」「食」「栄養」に関する社会的諸課題を自ら発見し、主体的に解決する人間性豊かな専門職業人を養成する。
----------	---

【農業生産学科】

教育研究上の目的	生物や生産環境の科学的真理の解明および生物資源と農業生産技術の開発とその高度利用を追究し、環境への負荷が少なく、生産効率の高い農業生産を実現、および新技術の開発・普及に必要な知識・技術を身につけ社会に貢献できる人材を養成する。
構成する研究室	植物遺伝育種科学、作物科学、園芸科学、植物病理学、応用昆虫学、生産生態基盤学

【応用生物科学科】

教育研究上の目的	生物・生命の諸現象と、その背後にある原理とメカニズムを、分子から個体、集団、生態系を含む視点で深く学び、身につけた広範な知識を基に、人類が直面している食料、生命、環境に関わる諸課題の解決に貢献できる、創造力の豊かな人材を養成する。
構成する研究室	植物分子生理学、ゲノム生物学、植物環境微生物学、応用微生物学、動物機能科学、海洋生物学

【食品栄養学科】

教育研究上の目的	農学の学びを基盤として、食のプロセス（農産物の生産から加工・流通・消費まで）を体系的に理解し、食・栄養・健康・医療・食育の専門的知識・技能・態度を身につけ、地域の健康と心豊かな暮らしの実現に貢献できる人材を養成する。
構成する研究室	公衆衛生学、臨床医学、運動生理学、調理学、食品学、食品加工学、食品衛生学、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理

【食農ビジネス学科】

教育研究上の目的	農業や食料、食品産業に関する経済・経営・マーケティングなどの専門知識を身につけ、国内外に存在する食料・農業に関する社会経済的な諸課題の解決に向けて、それらの知識を理論的・実践的に活用して貢献できる人材を養成する。
構成する研究室 または分野	農業経営学、食料・農業政策学、農業経済学、地域マネジメント、食料・農業市場、食品産業論、農水産物・食品マーケティング、食品流通、食農共生、環境農学、食農教育、持続型フードシステム